

第90回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和2年10月13日（火） 15：00－16：00

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、遠藤委員、中須賀委員、山崎委員

(2) 政府側

井上内閣府特命担当大臣（宇宙政策）

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 松尾事務局長、岡村審議官、吉田参事官、川口参事官

内閣衛星情報センター 倉内管理部長、文部科学省 生川研究開発局長、

防衛省 大和防衛政策局次長

(3) オブザーバー

宇宙航空研究開発機構（JAXA） 山川理事長

4. 議事要旨

井上大臣より冒頭発言の後、以下のとおり議論を行った。

(1) 「令和3年度宇宙関係予算の概算要求の状況について」事務局、内閣衛星情報センター、文部科学省、防衛省より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。（以下、○委員からの意見）

○宇宙基本計画の着実な実行には、予算増額が必須であり、今回、大幅増額となった要求額をしっかりと実現していく必要がある。

(2) 「宇宙基本計画工程表改訂に向けた主要論点について」事務局より説明を行った。

委員からは以下の様な意見があった。（以下、○委員からの意見）

○衛星開発・実証プラットフォームについては、世界に勝てる衛星を開発するために、失敗を恐れず挑戦することができる、各省連携のヘッドクォーターにしていく必要がある。

○工程表改訂においては、できる限り各施策の達成時期を明記するとともに、責任主体を明確化することが重要。

○宇宙基本計画の実行に向けては、宇宙だけでなく他分野の政策との連携が重要である。

○アルテミス計画については、国際協力の観点のみならず、国内産業への波及の観点も重要であり、民間企業が参入しやすい仕組みづくりをしていく必要がある。

○米中関係をはじめ、世界秩序が新しい局面を迎える中、宇宙は、我が国の安全保障の要である日米同盟のカギとなる。今、日本は戦後構築してきた宇宙活動の自立性を維持できるか、米国にとって欠くべからざるパートナーとなれるか、大きな分岐点におり、その危機感を持って、予算獲得も含めてしっかり取り組む必要がある。

以上